

総 評

大問は 4 つで、昨年度に比べれば例年の傾向にやや戻った形となった。図形では、小問 4 つの内最後の 1 つはやはり難しく、証明は台形となることを証明するという多くの生徒にとって不慣れなものであった。第三問では関数だけでなく、前半は資料の活用と整理からの出題となった。後半は関数からの出題で、途中で変化量が変わる宮城県入試での典型問題が出題された。難易度は例年並みで、平均点は 44.5 点だった。

難易度・出題形式

【第一問】計算問題、平方根、2 次方程式、正負の判断、平面図形〈易～標準〉26 点

1～6【偏差値 2UP テキスト】【基本問題特訓】にて繰り返し対策してきた。

7【偏差値 2UP テキスト】No.74 が的中。「すべて」選び、と太字で注意してくれている。

8【基本問題特訓】⑬問 6 が的中。通常であれば補助線を入れる必要があり、やや解きにくい問題。

【第二問】方程式、確率、 $y=ax^2$ 、空間図形〈易～標準〉30 点

1【夏期講習会第 1 期 P10-7】の設定がほぼ同じである他、中 3 の春・夏・冬と、方程式には【季節の講習会】でもメインテーマの一つとして力を入れている。

2【実戦ゼミ】をはじめ、中 3 の春・夏・冬と、確率には【季節の講習会】でもメインテーマの一つとして力を入れている。宮城の入試では全部で 36 通り程度までにしかならないので、書き出してしまえばいいことを生徒たちは学んできている。

3【秋期講習会】や【実戦ゼミ】を中心に、幾度も練習してきたパターンである。

4【実戦ゼミ第 15 回第一問 6】の類題。比で操作してもよいが、体積を求めてしまっても比で比べればよい。

【第三問】資料の活用と整理、一次関数〈易～やや難〉25 点

1【直前特訓ゼミ第 1 回第二問 2】が的中。「●●以上の人の割合に注目して、判断した理由に対する記述」という設定まで同じである。

2(1) 小学算数の図形的(パズルの)な問題ではあるが、焦ると見えなくなりそう。

(2)(ア)「時間 - 距離」のグラフの軸が普段と逆になっており、(1)を間違えると連鎖が起こってしまうという意味で解きにくさがありそう。結局は 8 分で 2 km 進んでいる。

(2)(イ)【直前特訓ゼミ第 2 回第三問 3】などで、難しいながらも典型パターンだからこそやっている。

【第四問】平面図形〈易～難〉19 点

2(1) 模範解答のほか、 $\triangle DAB \sim \triangle CAE$ を証明してしまっても、同位角が等しいから平行、としてもよい。

(2)【直前特訓ゼミ第 4 回第四問 3(1)】を始め、三角形は 3 辺が分かれば高さが求まり、面積が求まる流れは繰り返し学んでいる。

(3) 制限時間内にこの 1 問 5 点を取りに行くよりは、ここまで(特に第一・二問)での間違いがないか解きなおして確認することに時間を使うべきである。このことは徹底的に浸透させている。

【点数内訳】

小学生内容 5 点 中 1 内容 31 点 中 2 内容 25 点 中 3 内容 39 点